

4 今後の放課後子供教室における人材育成の課題と方策について ～東京学芸大学准教授・「ねりまチャージ」担当教員 鉄矢 悦朗先生のお話から～

放課後子供教室を継続的な活動にしていくためには、人材育成がカギとなります。人材育成には、信頼が大切です。信頼はお互いを認め合うことから発生し、時間をかけた活動の積み重ねで、さらに信頼は醸成されていきます。

継続的な活動のためには、①お互いが信頼関係のあるパートナーであるという自覚、②新しい人を迎える雰囲気をもつ、③「15年後の放課後子供教室をどうするか」という空間的にも時間的にも広く深い視野で考える、④近隣大学、児童館、博物館、図書館など地域資源を有効活用する、⑤なによりも続けたい「楽しさ」がある、以上のことが大切だと考えます。

近い未来のためには新しいリーダーを育てることも必要ですが、活動を退いた自分の居場所も考えてみるなど、時間的にも大きな視野で継続的な活動を描いてはいかがでしょうか。



資料 「東京の放課後子供教室」

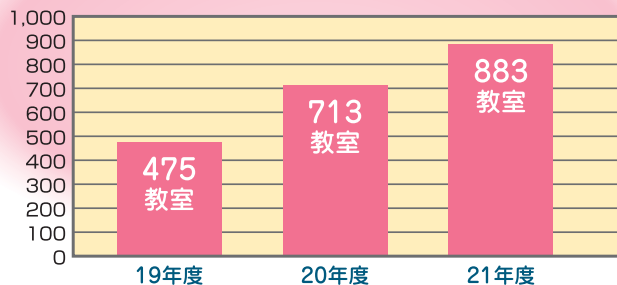
放課後子供教室の目的

東京都教育委員会では、平成19年度から「放課後子供教室推進事業」を開始しました。

この事業は、青少年の問題行動の深刻化や地域の教育力の低下等の緊急的課題に対応するため、区市町村を実施主体として、放課後や週末等に、地域に安全・安心な子供の活動拠点「放課後子供教室」を設け、すべての子供を対象に様々な体験活動や交流活動等の取組をすべての小学校区で実施することを目指しているものです。

放課後子供教室の進捗状況

東京都では、この事業を「第二次東京都教育ビジョン」「10年後の東京実行プログラム2010」の計画事業に位置付け、区市町村での取組の促進を図り、平成19年度は38区市町で475教室、平成20年度は46区市町で713教室、平成21年度は48区市町で883教室が実施されるなど着実に実施教室が増加しています。



放課後子供教室の実施状況

「放課後子供教室」は、学校の余裕教室や校庭等を活用して、放課後や週末、夏休み等に、地域の保護者、高齢者、学生等の参加・協力により、コーディネーター・安全管理員・学習アドバイザーなどを配置して、「学び」(予習や復習などの活動)、「体験」(スポーツや文化活動)、「交流」(地域の大人や異年齢の子供との交流)、「自由遊び」(昔遊びや縄跳び、鬼ごっこ等)などの活動を展開しています。

◆年間開催日数

1教室当たり平均 166日(平成21年度)
(平日:130日、土曜日:16日、日・祝:3日、長期休業日:17日)

◆子供の参加延人数

6,943,626人(平成21年度)
(平日:5,949,276人、土曜日:254,697人、日・祝:39,161人、長期休業日:700,492人)
(うち特別支援学校、特別支援学級に在籍している子供の参加延人数 28,538人、中学生以上の子供の参加延人数 31人を含む)
1日・1教室当たりの参加人数 47.4人

◆放課後子供教室スタッフの人数(平成21年度)

- ①コーディネーター配置総数(実人数)568人
(内謝金支出 424人)
1自治体当たりのコーディネーター配置数 11.8人
- ②安全管理員参加人数(延人数)673,066人
(内謝金支出641,455人)

1日・1教室当たりの参加人数 4.5人

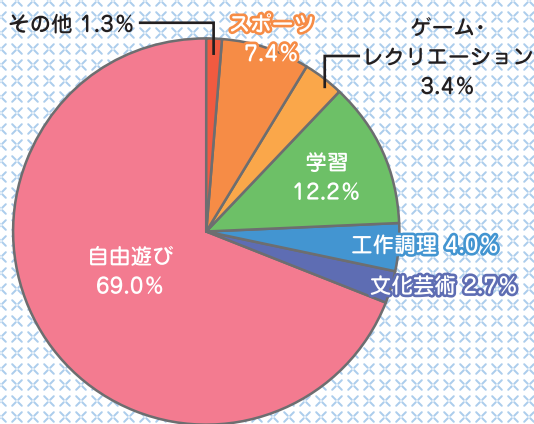
③学習アドバイザー参加人数(延人数)148,497人
(内謝金支出127,504人)

1日・1教室当たりの参加人数 1.0人

注)文部科学省「放課後子ども教室子ども参加者数等調査」から

◆活動内容

1ヵ月間の活動時間の割合
(平成21年10月1ヵ月間の放課後子供教室(832教室)の活動状況調査から)



問い合わせ先

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課地域支援係

放課後子供教室担当 電話03-5320-6859 <http://www.syougai.metro.tokyo.jp/sesaku/houkago.html>